

# ぼくのお姉ちゃん

一宮市立小信中島小学校三年

福田 隆之介



ぼくのお姉ちゃんは、ダウン症です。お姉ちゃんは五年生ですが、ほくよりも体が小さくて、歩いたり走ったりするのがおそいです。話をすることや勉強をすることなども苦手で、ぼくがお兄ちゃんと言われることが、よくあります。

お姉ちゃんは今、一、二年生の宿題をしているので、ぼくが教えてあげたりします。算数がとくに苦手ですが、さいきは九九もできるようなになってきて、勉強をがんばっているなど思っています。ほくよりもできないことが多いですが、お姉ちゃんはピアノを習っているのです、ドレミや高い下や低い下などが分かっている、りょう手で曲をひくことができそうです。

お姉ちゃんと外でボール遊びをしたり、ゲームをしたり、家の中でいつもいっしょにいます。でも、ぼくもお姉ちゃんもおこりっぽいのでけんかをいっしょにします。なかなか仲直りできないこともあります。けんかしてなかせてしまっても、おもしろいことをすると、すぐににこにこしてくれて、仲直りできてうれいす。

お姉ちゃんは、言われたことをすぐにかいすることがむずかしいので、ぼくや友だちがいやだなあと思うことをしてしまふことがあります。何度も同じことでお父さんやお母さんにしかられて、あやまれずに一人であるときは、ぼくが教えてあげると、きちんとあやまれます。そして、お姉ちゃんたちが仲直りできると、ぼくもうれしく思います。はんたい

にぼくがしかられてかなしいときは、「いっしょに遊ぼう。」と言つてくれて元氣になります。いつでも明るくわらつて遊んでくれるお姉ちゃんが大すきです。

お姉ちゃんには、お母さんがつきそうながひつようなので、ぼくが小さいときは、お父さんとほいくえんへ行つたり、るすばんをしたりすることが多くてさびしいなあと思つていました。でも今では、ぼくが家のかぎを持つて学校へ行き、お母さんが仕事から帰つてくるまで、お姉ちゃんとするすばんすることをまかされるようになりまし。ぼくがお姉ちゃんのことをいろいろと分かるようになったから、お母さんは安心していると言つてくれます。

お姉ちゃんは、ほうか後デイサービスへ行くことがあります。そこには障がいのある子たちが来ています。大きい声を出す子や何を言っているのか分からない子がいて、初めはこわかつたです。どんな障がいがあるのかは分かりませんが、お姉ちゃんが仲良く遊んだりしているのです、ぼくも少しづついっしょに遊べるようになりました。

お姉ちゃんがダウン症ということ、ぼくはいろいろな障がいのある子たちがいることを知ることができました。分からないことは多いけれど、その子たちとも仲よくしていけたらいいなあと思っています。

